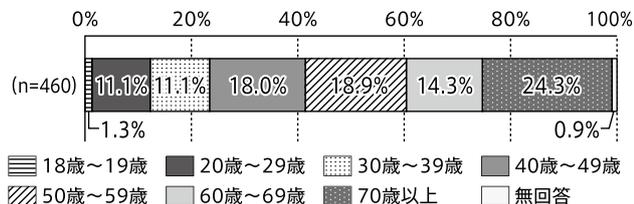


日本人区民調査の結果

① 回答者の属性

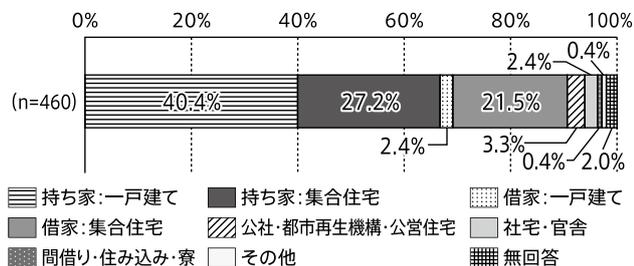
(1) 回答者の年齢(単一回答)

「70歳以上」の割合が最も高く24.3%となっている。



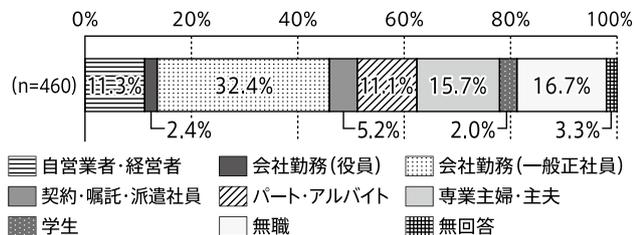
(2) 回答者の住居形態(単一回答)

「持ち家:一戸建て」の割合が最も高く40.4%となっている。



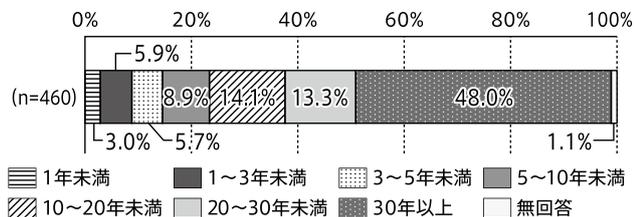
(3) 回答者の職業(単一回答)

「会社勤務(一般正社員)」の割合が最も高く32.4%となっている。



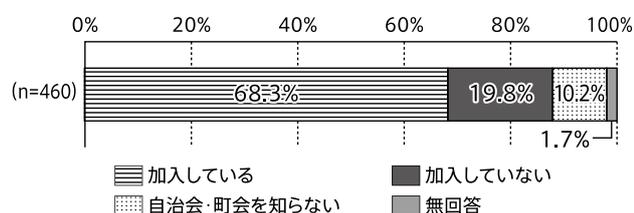
(4) 大田区での在住期間(単一回答)

「30年以上」の割合が最も高く48.0%となっている。



(5) 自治会・町会への加入状況(単一回答)

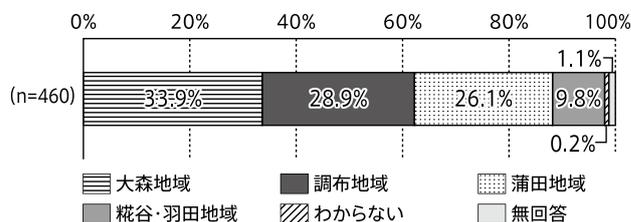
「加入している」の割合が最も高く68.3%となっている。



(6) 回答者の居住地(単一回答)

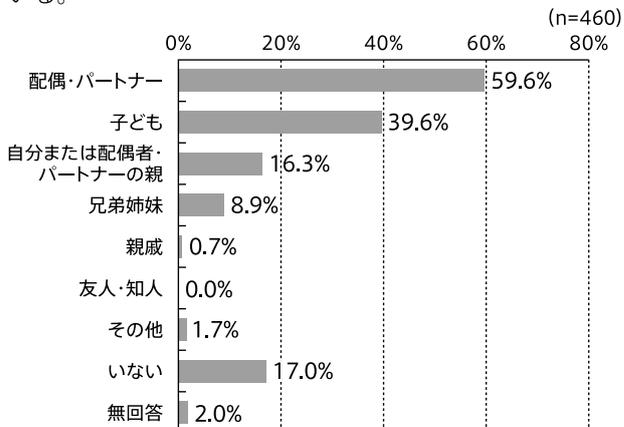
「大森地域」「調布地域」「蒲田地域」の3地域とも30%前後の回答割合となっている。

「糀谷・羽田地域」に居住する区民からの回答は9.8%となっている。



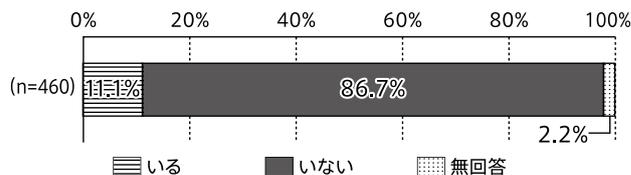
(7) 回答者の同居者(複数回答)

「配偶者・パートナー」の割合が最も高く59.6%となっている。



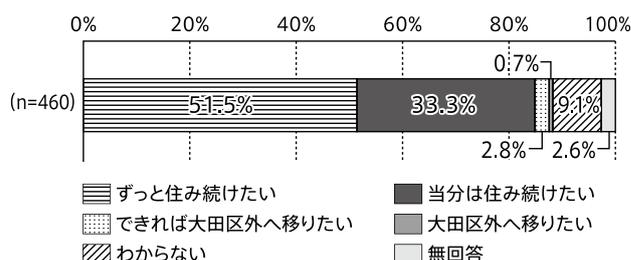
(8) 外国人や外国にルーツを持つ家族や親戚の有無(単一回答)

外国人や外国にルーツを持つ家族や親戚について、「いる」割合は、11.1%となっている。



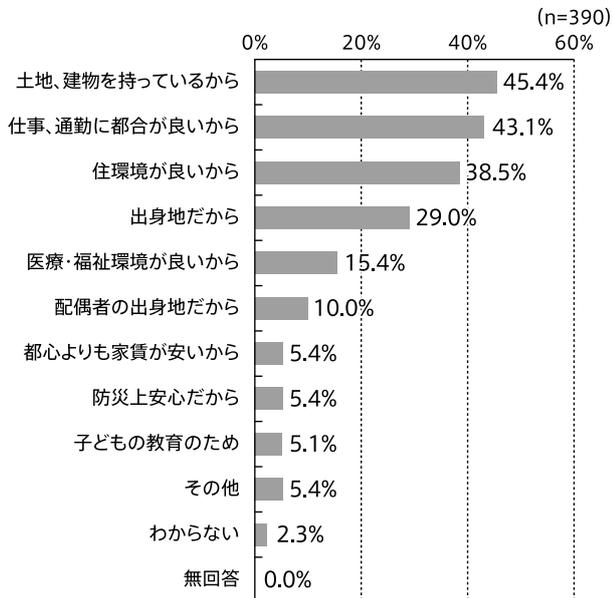
(9) 定住意向(単一回答)

「ずっと住み続けたい」の割合が最も高く51.5%となっている。



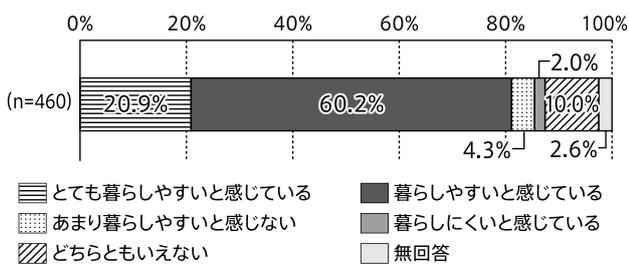
(10) これからも大田区に住みたい理由 (複数回答)

大田区に「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」と回答した人について、その理由を尋ねた。「土地、建物を持っているから」(45.4%)の割合が最も高くなっている。



(11) 現在住んでいるまちの暮らしやすさ (単一回答)

「とても暮らしやすいと感じている」(20.9%)と、「暮らしやすいと感じている」(60.2%)の足した割合は、81.1%に達している。

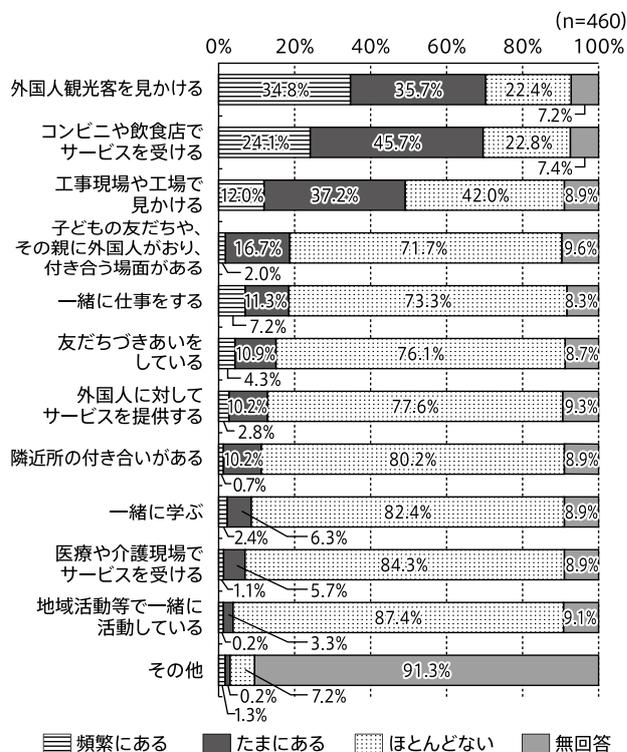


② 外国人区民との関わりなどについて

(1) 外国人との関わり

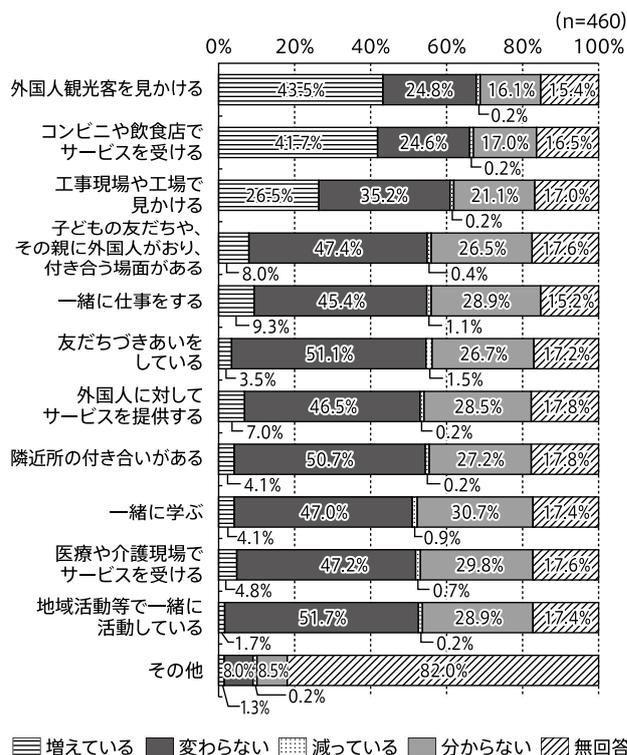
① 現在の関わり(各項目単一回答)

「頻繁にある」「たまにある」を足した割合が高い項目は、「外国人観光客を見かける」(70.5%)となっている。



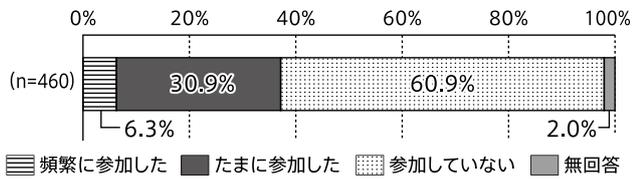
② 4年前(前回プラン策定時)との比較(各項目単一回答)

「増えている」項目は、「外国人観光客を見かける」(43.5%)が最も高くなっている。



(2) 直近1年間の地域活動への参加状況 (単一回答)

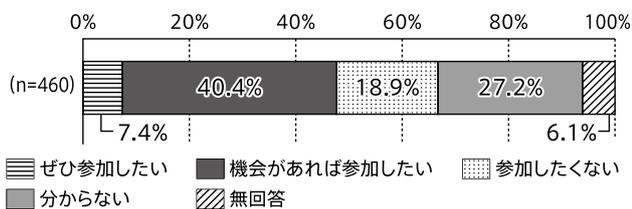
「頻繁に参加した」が6.3%、「たまに参加した」が30.9%となっている。
一方で、「参加していない」が最も高く60.9%となっている。



(3) 地域活動への今後の参加意向と活動可能時間

① 地域活動への今後の参加意向 (単一回答)

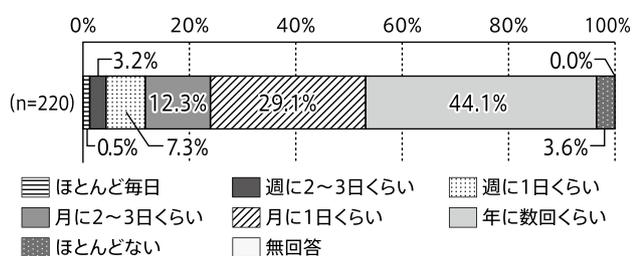
今後の参加意向について、「ぜひ参加したい」と「機会があれば参加したい」の割合を足すと、47.8%と約半数となっている。



② 今後、地域活動に参加できる時間 (単一回答)

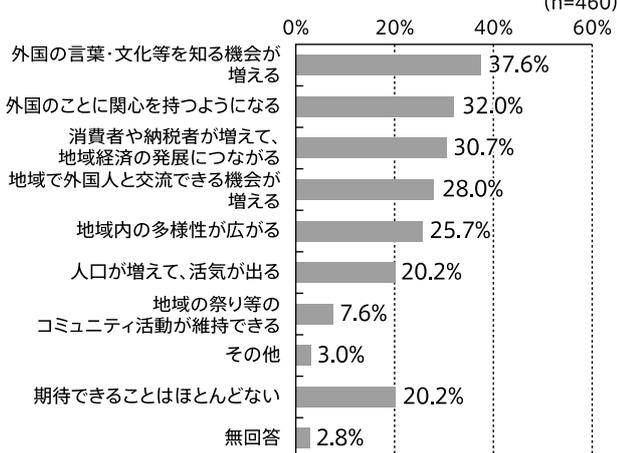
地域活動への今後の参加意向について、「ぜひ参加したい」または「機会があれば参加したい」と回答した人に、参加できる時間を尋ねた。

「年に数回くらい」が最も高く44.1%となっている。



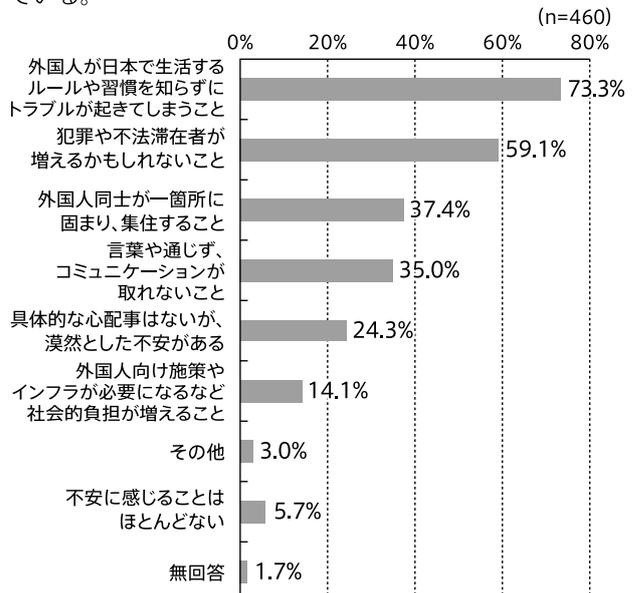
(4) 外国人が地域に増えることによるメリット (複数回答)

「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」の割合が最も高く37.6%となっている。



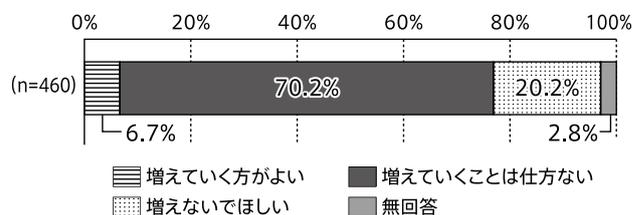
(5) 外国人が地域に増えることで、心配や不安に 感じること (複数回答)

「外国人が日本で生活するルールや習慣を知らずにトラブルが起きてしまうこと」の割合が最も高く73.3%となっている。



(6) 区内で暮らす外国人の増加傾向が継続する ことについて (単一回答)

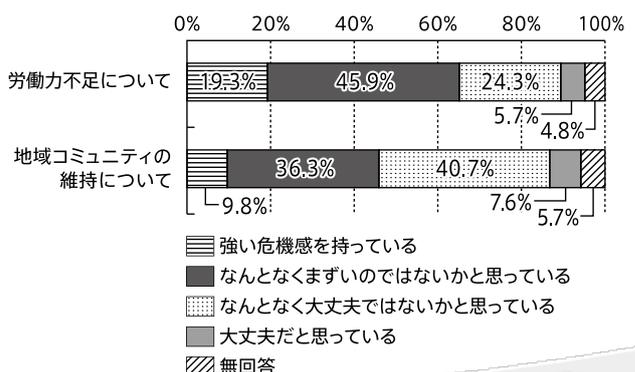
「増えていく方がよい」「増えていくことは仕方ない」の割合を足すと、76.9%に達する。



(7) 労働力不足や地域コミュニティの維持について (各項目単一回答)

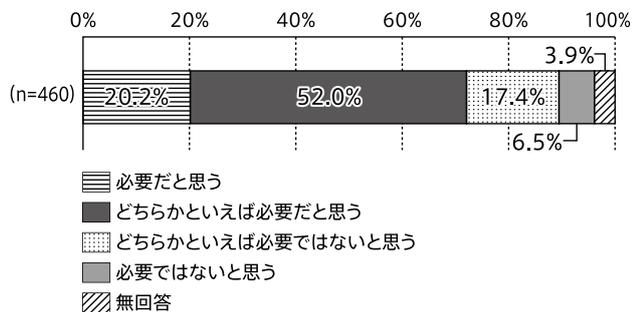
労働力不足については、「強い危機感を持っている」「なんとなくまずいのではないかとと思っている」の割合を足すと、65.2%に達する。

地域コミュニティの維持については、「なんとなく大丈夫ではないかとと思っている」「大丈夫だと思っている」の割合を足すと、約半数の48.3%に達する。



(8) 今後、地域で外国人が活躍することは必要か (単一回答)

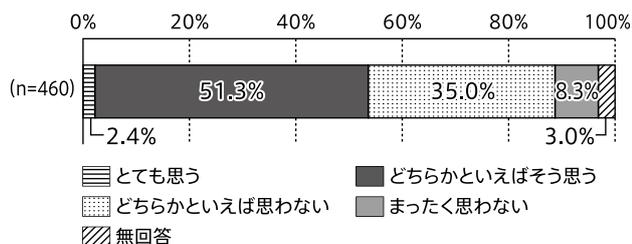
「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」の割合を足すと、72.2%となっている。



③ 多文化共生のまちづくりについて

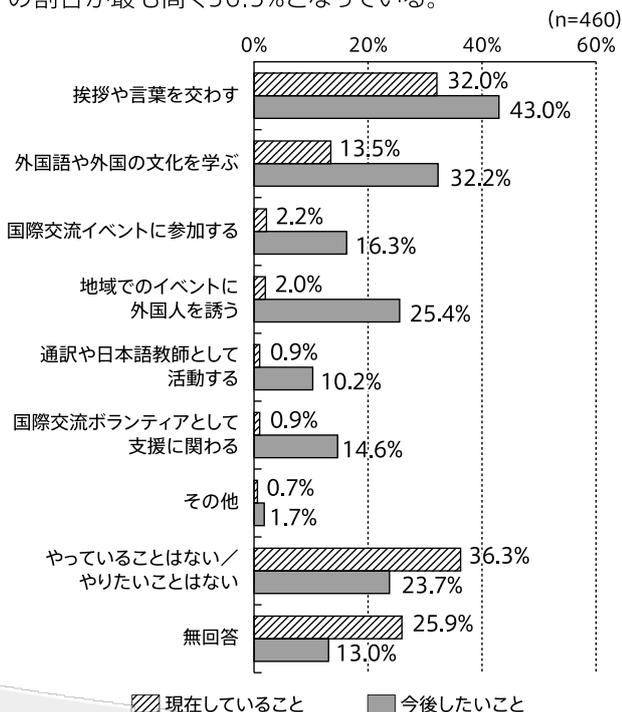
(1) 大田区では、日本人と外国人が互いに認め合い、暮らしていると思うか (単一回答)

「とても思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を足すと、53.7%となっている。



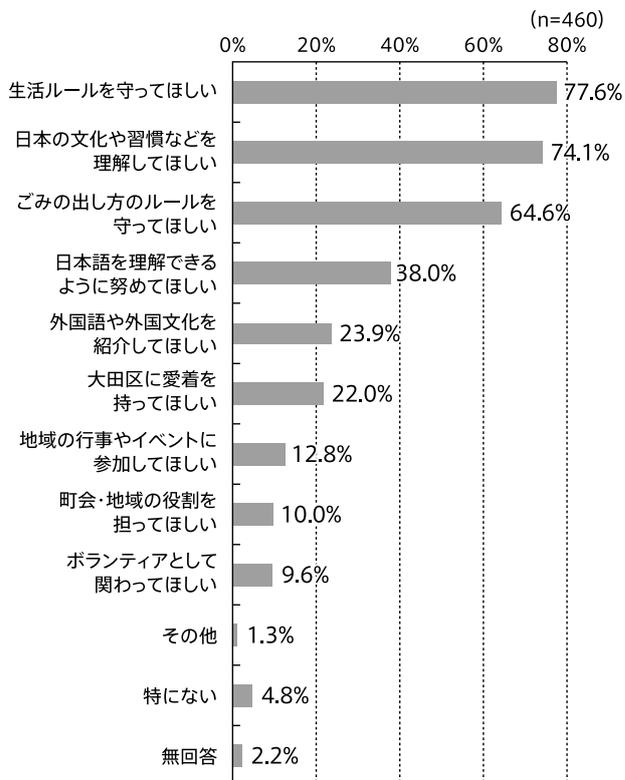
(2) 多文化共生社会実現のために現在していること・今後したいこと (各項目複数回答)

現在していることについては、「やっていることはない/やりたいことはない」の割合が最も高く36.3%となっている。



(3) 外国人に期待すること (複数回答)

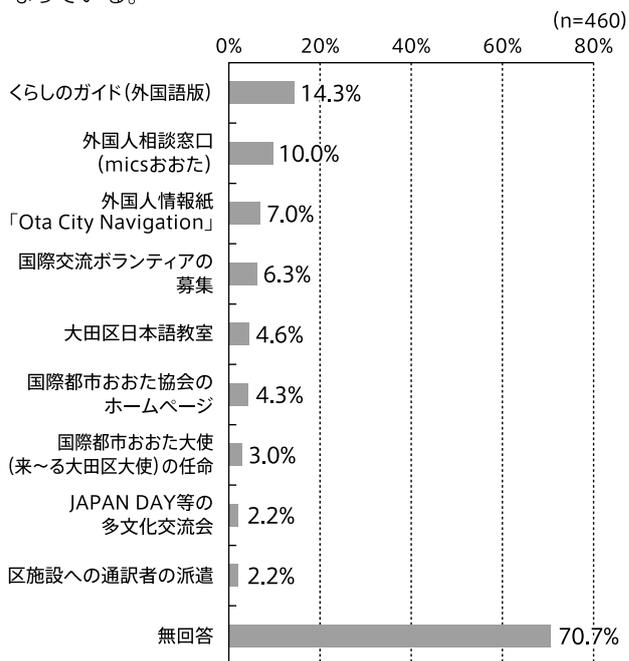
「生活ルールを守ってほしい」の割合が最も高く77.6%となっている。



(4) 多文化共生に関するサービスや取組等の認知度 (複数回答)

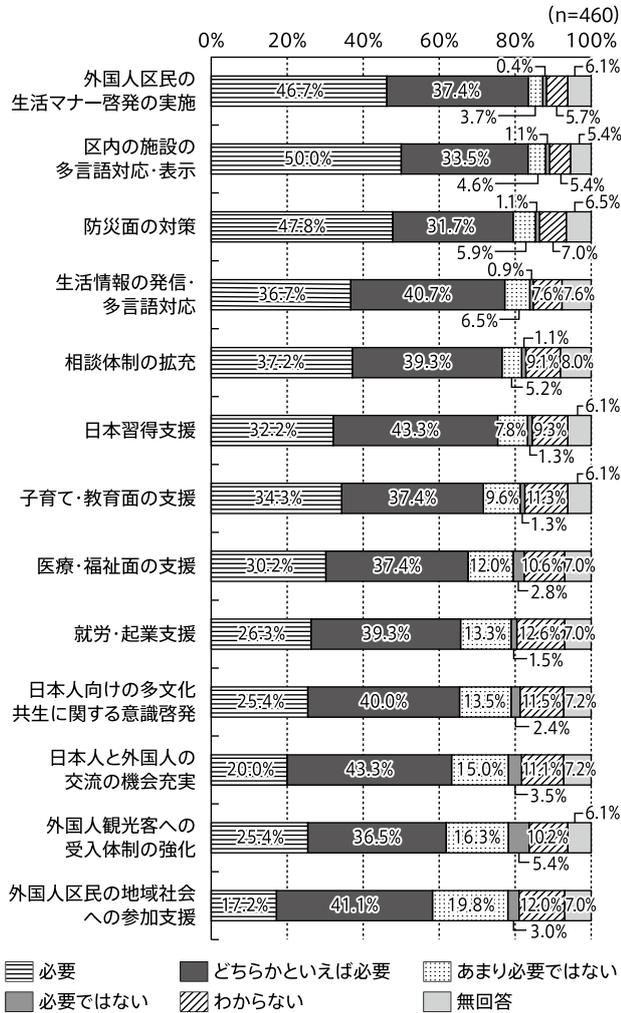
「無回答」の割合が最も高く70.7%となっている(これは、サービスの認知がされていない(知っている項目がない)と考えられる)。

「くらしのガイド(外国語版)」の割合が最も高く14.3%となっている。



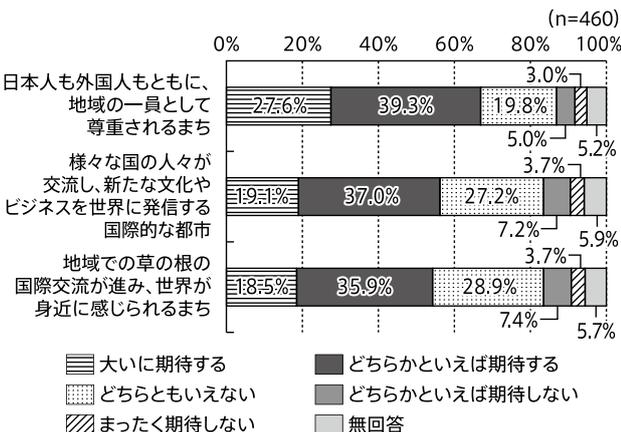
(5) 大田区の施策に対する必要度 (各項目単一回答)

各項目について、「必要」と「どちらかといえば必要」を足した割合が高い順に並べている。「外国人区民の生活マナー啓発の実施」を「必要」・「どちらかといえば必要」の割合が最も高く84.1%となっている。



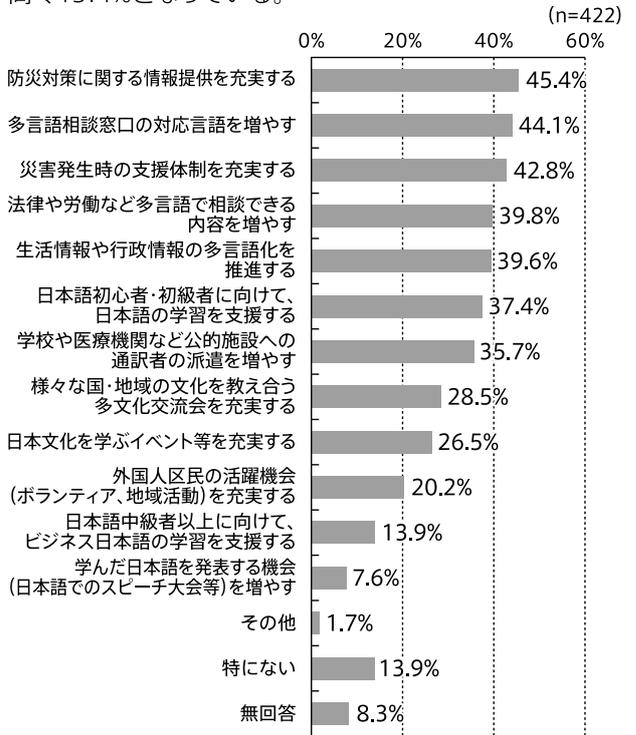
(6) 「国際都市おおた」としてどのようなまちになることを期待するか (各項目単一回答)

「日本人も外国人もともに、地域の一員として尊重されるまち」「大いに期待する」・「どちらかといえば期待する」と回答した割合は、合計で66.9%となっている。



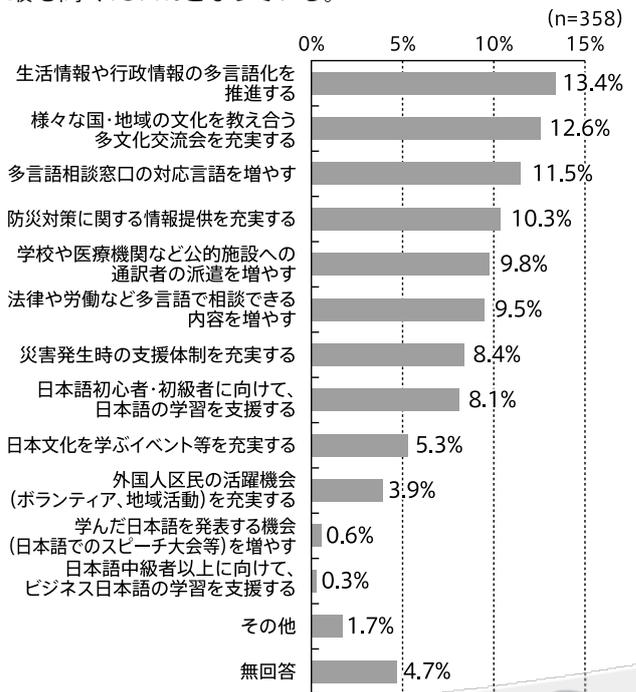
(7) 国際都市おおた協会に期待する取組 (複数回答)

「防災対策に関する情報提供を充実する」の割合が最も高く45.4%となっている。



(8) 国際都市おおた協会に最も期待する取組 (単一回答)

国際都市おおた協会への期待について、「特になし」または「無回答」以外を回答した人に、最も期待する取組を尋ねた。「生活情報や行政情報の多言語化を推進する」の割合が最も高く13.4%となっている。



資料編

**平成30年度
大田区多文化共生実態調査
【報告書概要版】**

平成30年11月

【発行】大田区 観光・国際都市部

国際都市・多文化共生推進課

〒144-8621 大田区蒲田5-13-14

TEL:03-5744-1227(直通)